

アメリカにおける 地方創生先進地 —— " アイオワ州 " 視察ツアー報告

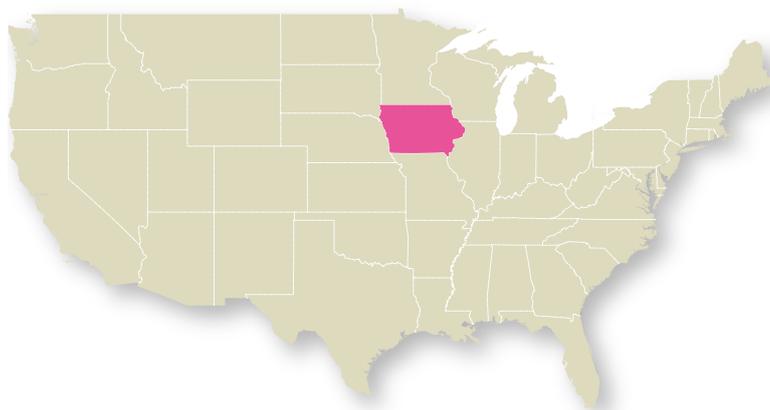
メインストリート・マネジメント・リサーチ合同会社代表社員 松本 博之

1. 視察ツアー組成に向けて

筆者がぶぎん地域経済研究所に在職中、アメリカの地方都市でのダウNTOWN再生の手法である「メインストリート・プログラム」について、本誌で何回か紹介する機会があった。

当時は「メインストリート・プログラム」を一つの研究テーマとしてとらえ、日本における中心市街地活性化の参考になればと思い筆を執っていた。そして3年前に退職・起業し、まちづくりコンサルタントとして、「メインストリート・プログラム」の戦略や取組みのアプローチを日本の地方都市へ紹介しつつ、視察ツアーの組成を試みていた。

日本にこれまでにない視点で自らの街の再生につなげてもらいたい、“百聞は一見に如かず”と多くの日本の皆さんに実際に現地に行って、見て、感じて、語ってほしいとの思いからだ。ようやく本年6月に第1回メインストリート・プログラム・アイオワ州ツアーを実施することができた。参加者は自治体職員、地方議会議員、大学教授やNPO法人事務局長等、多様な顔ぶれとなった。



本稿はその視察ツアーの概要と「メインストリート・プログラム」の実態を紹介するものである。

2. 「メインストリート・プログラム」とは

紙幅の関係で「メインストリート・プログラム」の詳細に触れることはできないが、1980年に疲弊した地方都市のダウNTOWN再生手法として始まったものである。40年以上の歴史を経た現在、全米45州で取り入れられ、ダウNTOWNのみならず、地域経済全体の活性化戦略として活用されており、言うなれば、全米版地方創生戦略としてその存在感を大きなものとしている。

3. なぜアイオワ州が先進地なのか？

皆さんにアメリカの地図をお見せして「アイオワ州の位置を指してください。」とお願いした場合、おそらく100人中100人が当てることはできないだろう。ちなみに下の地図の赤色部分がアイオワ州である。

日本にとって馴染みのないアイオワ州だが、「メインストリート・プログラム」に関しては、その歴史、州内の取組み体制やネットワーク化、そして再生実績等から大半の関係者に「ベスト・オブ・ベスト」と称賛されている。

「メインストリート・プログラム」を全く知らない人にとって、まずは成功事例を見ていただくためには好適地と言えよう。

(1) アイオワ州政府を訪問

今回の視察ツアーでは、その真髓を体感してもらうため、アイオワ州政府の担当部局である「メインストリート・アイオワ」を訪問し概要をレクチャーしてもらった。



アイオワ州政府担当者とのディスカッション

実質的に視察初日となる2日目は、州都デモインにてアイオワ州のメインストリート・プログラムの司令塔となっているアイオワ・エコノミック・デヴェロップメント・オーソリティを訪問し、「メインストリート・アイオワ」のマイケル・ワグラー氏とキャロル・リリー氏からメインストリート・プログラムの基礎知識に関するレクチャーと、アイオワ州の取組み事例について説明を受けた。その後、参加者からの質疑応答を含めて充実した2時間を過ごすことができた。メインストリート・プログラムの基本的な知識を共有したところで、メインストリート・コミュニティの視察へと出かけた。

2日目以降5日間にわたり、州内のメインストリート・プログラムを実践している自治体の中からその実績が顕著と認められた地域に贈られる「グレート・アメリカン・メインストリート・アワード (GAMSA)」の受賞地域3つを含む5つを訪問した。(アイオワ州は同賞の受賞地域が9と最多である) その中から3つを紹介する。

4. ツアー・レポート

(1) エイムス市

エイムス市は州都デモイン市からバスで約1時間北上した人口約6万人の学園都市である。市の西部にアイオワ州立大学(学生数30,000人)を抱えている。

このメインストリート・プログラムの特徴としては、メインストリート・プログラムの事務局を現地の商工会議所が担っていることである。メインストリート・プログラムを担う組織は、その多くが専



用のNPO法人を設立して行うことが一般的であるが、ここでは商工会議所がダウンタウン再生の司令塔を兼務している。(副会頭がメインストリート・プログラムの事務局長)

こうした取組みは商工会議所会員である地元商工業者へのサービス向上へつながり、また事務局の人員費等のコスト軽減につながる。市当局の施策とのシナジー効果が得やすい等の利点もある。

このことは、日本においてメインストリート・プログラムを導入し、事業活動の主体となる組織づく



エイムス市幹部との交流



エイムス視察風景

りにおいて、大きな示唆があると思われる。同市では、現在、メインストリート・プログラムの対象エリアに 120 のビジネスがあり、日本で言う空店舗はゼロの状態である。

また居住人口の増加にも力を入れており、現在は既存のホテルを賃貸アパートメントに改装し、更なる人口増を目指している。アイオワ州内では次の全米表彰候補になるのは間違いないと思われるほどの充実した取組みをしている。

(2) シダー・フォールズ市

アイオワ州の北東部に位置する人口 4 万人のシダー・フォールズ市は、アイオワ州内の多くのダウンタウンがそうであるように“洪水被害”との戦いを強いられてきた。今ではダウンタウンの街並み景観は色彩、高さ、窓などが統一感を持って整備されており、メインストリート・プログラムの模範とも言える成功事例として輝きを放っている。アイオワ州のメインストリート・プログラムとしては、ごく初期といえる 1987 年から活動を開始し、2002 年に



シダー・フォールズのダウンタウン



シダー・フォールズのアパートメント



フィールドオブドリームス

ツアーの途中で訪れた映画「フィールド・オブ・ドリームス」の撮影地。当時のまま一般開放されている

は全米表彰となるグレートアメリカン・メインストリート・アワードを受賞している。

シダー・フォールズ市のメインストリート・プログラムの特徴は、その盤石な財政基盤にあると言ってよい。日本ではもちろん、メインストリート・プログラムにおいても、組織の最大の課題は“持続可能な財政基盤の確立”と言えるが、シダー・フォールズ市は行政、地権者、事業者そして一般市民のコンセンサスによりこの最大の課題を克服している。

それが SSMID というメインストリート・プログラムの事業資金を目的とする付加価値税である。

よく事例として紹介される、ニューヨークなどの大都会のビジネス地区で活用されている BID という手法に似ているものである。この SSMID で集められた税金が市当局からメインストリート・プログラムの活動資金として支給されている。人口 4 万人の自治体で 40 年近くも前から、この制度で“中心市街地活性化”が進められているとは日本では信じられないと思う。この制度を活用し着実かつ確実に実績をあげてきたシダー・フォールズ市のメインストリート・プログラム組織は、当初の 20 ブロックだった対象地区を広げて、既存建物の修復による景観向上や、子育て世代流入のためのアパートメントの新築などを進めている。

(3) ダビューク市

ダビューク市はアイオワ州の東北部の端、イリノイ州とウイスコンシン州との境にあるミシシッピー川の港町として有名な街である。「ミシシッピー川の



ダビューク市の全景



ダビューク市のウォールアート

サンフランシスコ」と異名を持っている。

1985年、アイオワ州で最も早くメインストリート・プログラムに取組んだダビューク市のダウントウンは当時“空店舗率 50%”と悲惨な状況だった。その後、メインストリート・プログラム組織を中心に市、商工会議所、観光協会、企業や大学などの“オール・ダビューク”の取組みによって再生を果たしている。現在の空店舗は数%以内となり、ダウントウンでの起業や居住で 20 代～ 30 代の若者の“再流入”が進んでおり、ダウントウンでのアパートメント増設が間に合わない状況にある。

もうひとつ、ダビューク・メインストリート・プログラムでは、地元のアーティストと連携して建物の外壁等を利用した“ウォール・アート”を積極的に展開している。

レンガ造りの歴史的建造物が多いダウントウンにおいて、ウォール・アートが新たな魅力を加えている。



今回は 6 月に実施した弊社の「メインストリート・プログラム・アイオワ州視察ツアー」の概要を紹介する機会を得た。紙幅の関係もあり、全てのメインストリート・プログラムの魅力を詳細にお伝えすることはできなかったが、アイオワ州政府担当者とのメインストリート・プログラム入門講座、エイムス市、シダー・フォールズ市、ダビューク市の特筆すべき点をご紹介できたと思う。

さらに言うところの 3 つのコミュニティは人口 4 ～ 6 万人と、日本では非常に小さな自治体であることだ。日本のこの人口規模の自治体で、空店舗はゼロ、

アパートメントへの入居待ち 6 か月などまずないだろうし、“消滅可能性都市”から、どうしたら抜け出せるのかと思い悩んでいるところもあるだろう。

それならば、新たな活性化戦略としてメインストリート・プログラムをお勧めしたい。

弊社では、今回のアイオワ州を中心とする中西部を視察するコースの他、東海岸コースや西海岸コースも用意している。

■東海岸コース

首都ワシントン DC に行き、DC をベースに DC 地区内の都市部で活動しているメインストリート・プログラムの訪問をはじめ、周辺のペンシルベニア、メリーランド、バージニアの各州内へ日帰り又は 1 泊 2 日のバスツアーで視察訪問するものである。ワシントン DC や古都フィラデルフィアでの観光や野球観戦なども楽しめる。

■西海岸コース

西海岸で最もメインストリート・プログラムの活動が盛んなワシントン州内を訪問するツアーとなる。まずはシアトルに行き、ここを出発地点として全米表彰を受けたメインストリート・プログラムを 3 ～ 4 か所バスツアーで巡る。全米一とも言われるワインを堪能しながら、シアトルのクラムチャウダーも楽しめる。

その他メインストリート・プログラムに関する研修会やセミナーの講師も…

まずは、以下のメールアドレスまで。

msmr@info.com